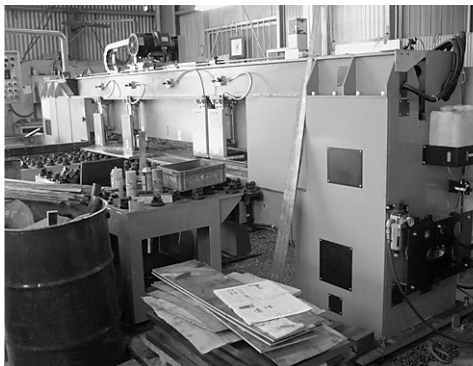


大和合金 銅板用切断機を大型化

高精度化、2500ミリ幅まで対応

銅合金鋳鍛メーカーの大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏）はこのほど、生産会社の三芳合金（埼玉県三芳町）で切断機を更新した。写真。熱交換器向けなどの銅合金板では大型化のニーズが高まっており新設備で対応する。これまでの切断幅は約1700ミリまでだったが、2500ミリまで加



工でできるようになった。さらに切断の精度が高まり歩留まりが向上するほか、作業スピードが1・5倍になった。投資金額は約1700万円。

導入したの
は山本機械産
業社の高速自
動走行丸鋸切
断機。鍛造後
の板の形を整
えるのに用い

る。以前は手作りに近い設備だったが、新型機では操作性が大幅に向上。作業テーブルに回転するローラーが取り付けられているなど材料の取り回し性が高い。また、直角の切断などでも効果を発揮する。切断材材料の厚みは70ミリまで対応できる。

同社では部材の大型化に対応した取り組みを推進しており、昨年には大サイズ品の生産に向けて鋳型を製作。従来から約3割太いピレットの鋳造を可能にしている。

